

## ケアゾーンの設定からケアタウンへの段階的移行 集落単位でのコミュニティケアを前提としながら、外部ケアを受け入れやすく、見守りがしやすいケアタウンへの第一歩を！

### 第1段階 移転計画（ルール対応）

- 集落（コミュニティ）ごとの移転
- 偏らない人口構成
- 大家族の受け入れ
- 抽選方式の改良で可能

### 第2段階 ケアゾーンの設定（ルール+設計対応）

- 要ケア住戸（とその家族）を集会所・サポートセンター・駐車場の近くに設定
- 全体の1/4~1/3程度（要ケア居住者+その家族）を設定
- 抽選・設計方式の改良で可能

### 第3段階 ケアゾーンの配置計画（設計対応）

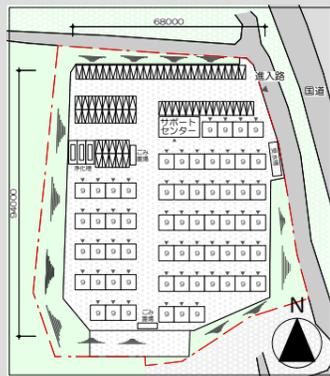
- （その1）現状型
  - 現状の建て方で可能
- （その2）日照型
  - 南入り住戸（リビングアクセス）平面導入
- （その3）見守り型
  - 南北軸配置を導入
  - リビングアクセス平面導入

### 第4段階 路地デッキの挿入（入居後対応）

- 前面道路のバリアフリー化
- 住戸内外のバリアフリー化
- 夏場の涼みの場
- 冬場の温室的場
- 仮設完了後に時間差で可能
- ボランティアベースで可能
- 雇用機会提供としても可能
- 地場産材振興としても可能

### 現状の仮設住宅

\* 阪神淡路大震災で設住宅で250人以上の高齢者が孤独死



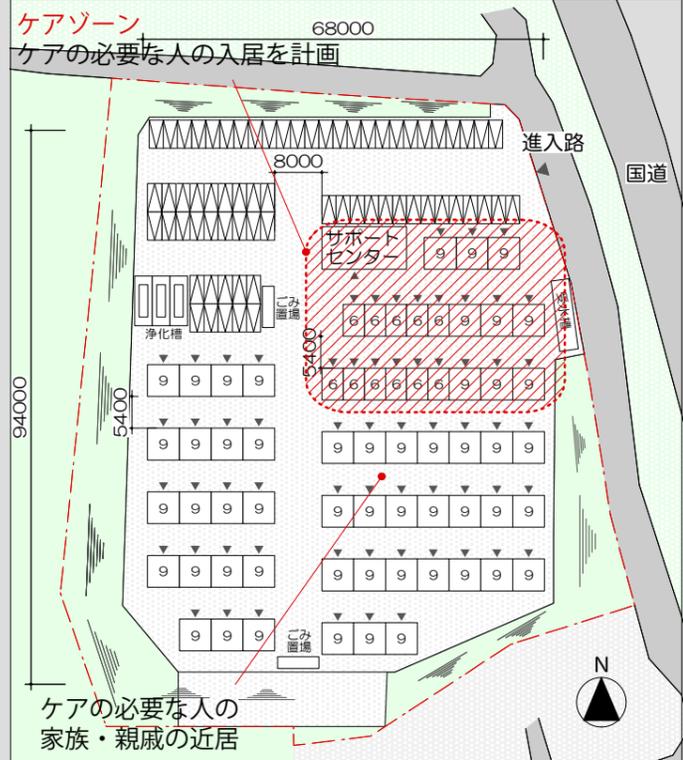
- 南面平行配置シングルアクセス
  - ・コミュニティ形成の阻害
- 住宅だけからなる町
  - ・ひっそりとした町
  - ・雇用の場がない
- 単一間取りだけからなる町
  - ・偏った家族構成、人口構成
- バリアフリーの欠如
  - ・住戸までのバリア、住戸内外の段差
- 拡張性の欠如
  - ・コミュニティ用地の確保難

敷地面積：6500㎡ 住戸数：9坪タイプ×61戸  
 駐車場：67台  
 住戸中の数字は坪数を示す Scale=1:2500

### 提案：ケアゾーンの設定

仮設住宅地の一部にケアゾーンを設置するケアゾーンとは...

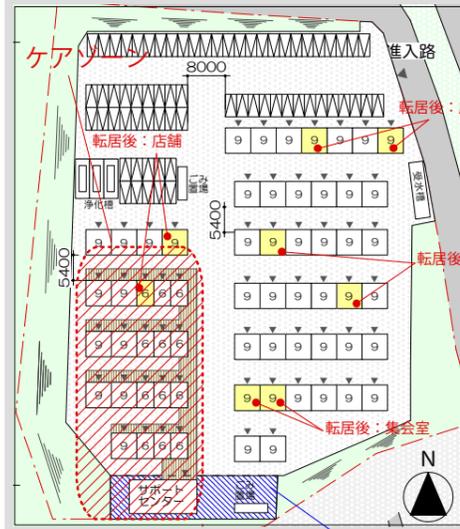
- ・高齢者、子育て世帯、身体障害者等の生活（外部からの福祉的サポート、バリアフリー、コミュニティ形成）をサポートする住戸エリア
- 多様な家族が団地内に住むこと
  - ・ケアの必要な人のケアゾーンへの入居
  - ・大家族の団地内近居が可能
- 外部からの福祉的サポートへの対応
  - ・車路の確保
  - ・外来用駐車場の確保
- バリアフリー化
  - ・路地デッキを後で設置
- コミュニティ形成の促進
  - ・向かい合わせの玄関、リビングアクセスの間取りを採用することでコミュニティ形成を促進



敷地面積：6500㎡ 住戸数：9坪タイプ×51戸、6坪タイプ×11戸 合計62戸  
 駐車場：67台

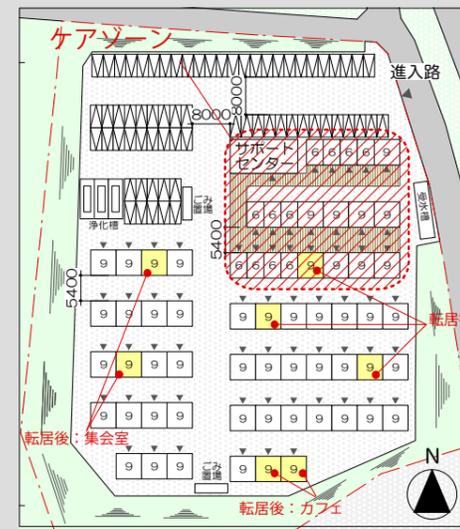
### 考えられる3つの配置形式によるケアゾーンの形成と時間経過による変化

#### 従来付加型（東西軸シングルアクセス）



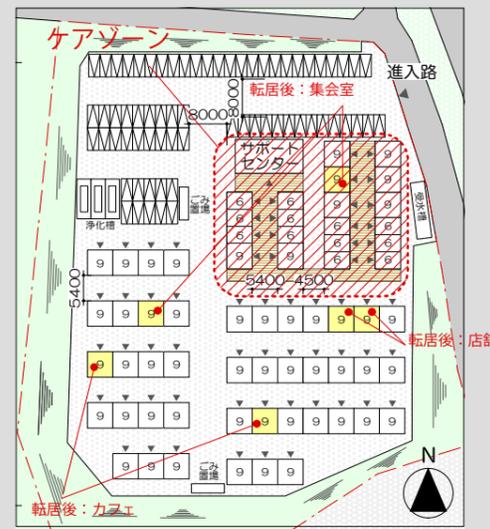
- 東西軸の住棟配置
  - ・主室の南面採光
- シングルアクセス（片側玄関）
  - ・コミュニティ形成はされにくい→既存平面でも対応可能

#### 日照型（東西軸コモンアクセス）



- 東西軸の住棟配置
  - ・主室の南面採光
- コモンアクセス（向かい合わせ玄関）
  - ・向こう三軒両隣のコミュニティ形成・維持
  - ・路地をコミュニティ活動の場として有効活用
  - 北側住棟にリビングアクセスの住戸平面必要

#### 見守り型（南北軸コモンアクセス）



- 南北軸の住棟配置
  - ・平等な採光
  - ・日当たりがよい路地空間
- コモンアクセス（向かい合わせ玄関）
  - ・向こう三軒両隣のコミュニティ形成・維持
  - ・路地をコミュニティ活動の場として有効活用
  - リビングアクセスの住戸平面必要

### 建築概要

	従来型	日照型	見守り型
	全62戸	全62戸	全63戸
住戸	ケアゾーン：計19戸 (9坪タイプ：7戸、6坪タイプ：12戸) 一般ゾーン：計43戸 (9坪タイプ：43戸)	ケアゾーン：計19戸 (9坪タイプ：8戸、6坪タイプ：11戸) 一般ゾーン：計43戸 (9坪タイプ：43戸)	ケアゾーン：計20戸 (9坪タイプ：8戸、6坪タイプ：12戸) 一般ゾーン：計43戸 (9坪タイプ：43戸)
駐車場	全67台： 63台（居住者用）、4台（外部者用）		
その他	サポートセンター、ゴミ置き場、貯水槽、浄化槽		

### 夏季の縁側デッキの風景



縁側デッキによしずを架け、ゴーヤ、ヘチマや朝顔を這わせる。住民の涼みの場、居場所となる。

### 冬季の縁側デッキの風景



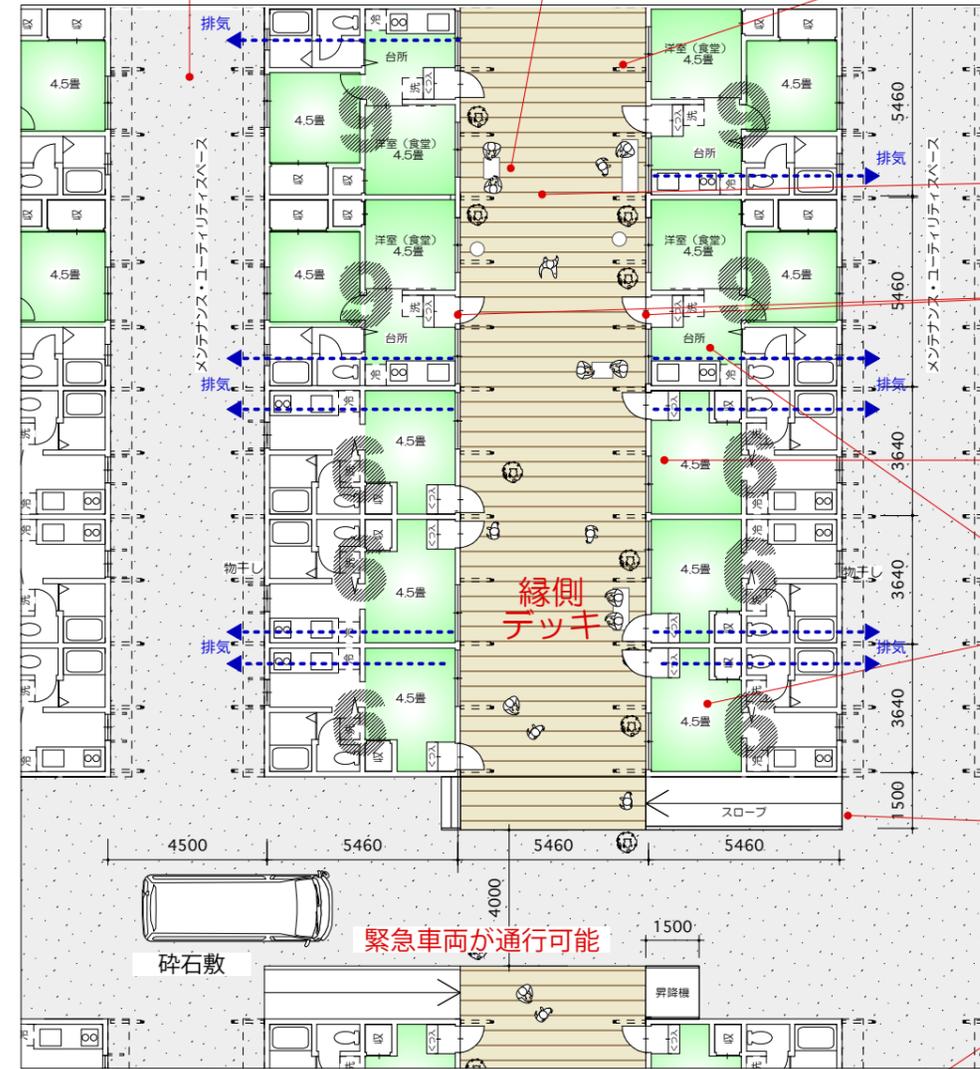
縁側デッキ上に透過性の屋根を架け、妻側も閉じ、風除室を兼ねた温室的空間をつくる。

### 見守り型（南北軸コモンアクセス）

設備メンテナンスや冬季の排雪ができるように2.7m以上のスペースを確保

椅子やテーブルを出した住民の井戸端会議の場

地場産材を利用した木製デッキ（地元の大工さんや学生ボランティアが製作設置）



隣棟間は最低4.5m以上確保

玄関が向かい合う(コモンアクセス)配置

人の気配と見守る視線を感じることができる(リビングアクセス)住戸計画

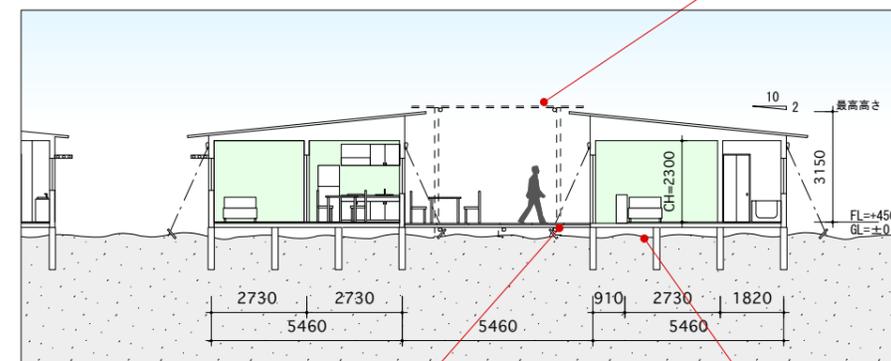
棟の端部には高齢単身者向け6坪住戸ユニットを、棟の中心には家族向け9坪住戸ユニットを配置

ストレッチャーや車椅子が回転し、通行可能な斜路幅を確保

冬季は透過性の屋根を架け、温室的リビング  
夏季はよしずや緑のカーテンを架け、涼みの場

Scale=1:200

### 断面図



Scale=1:200

路地デッキを後で設置

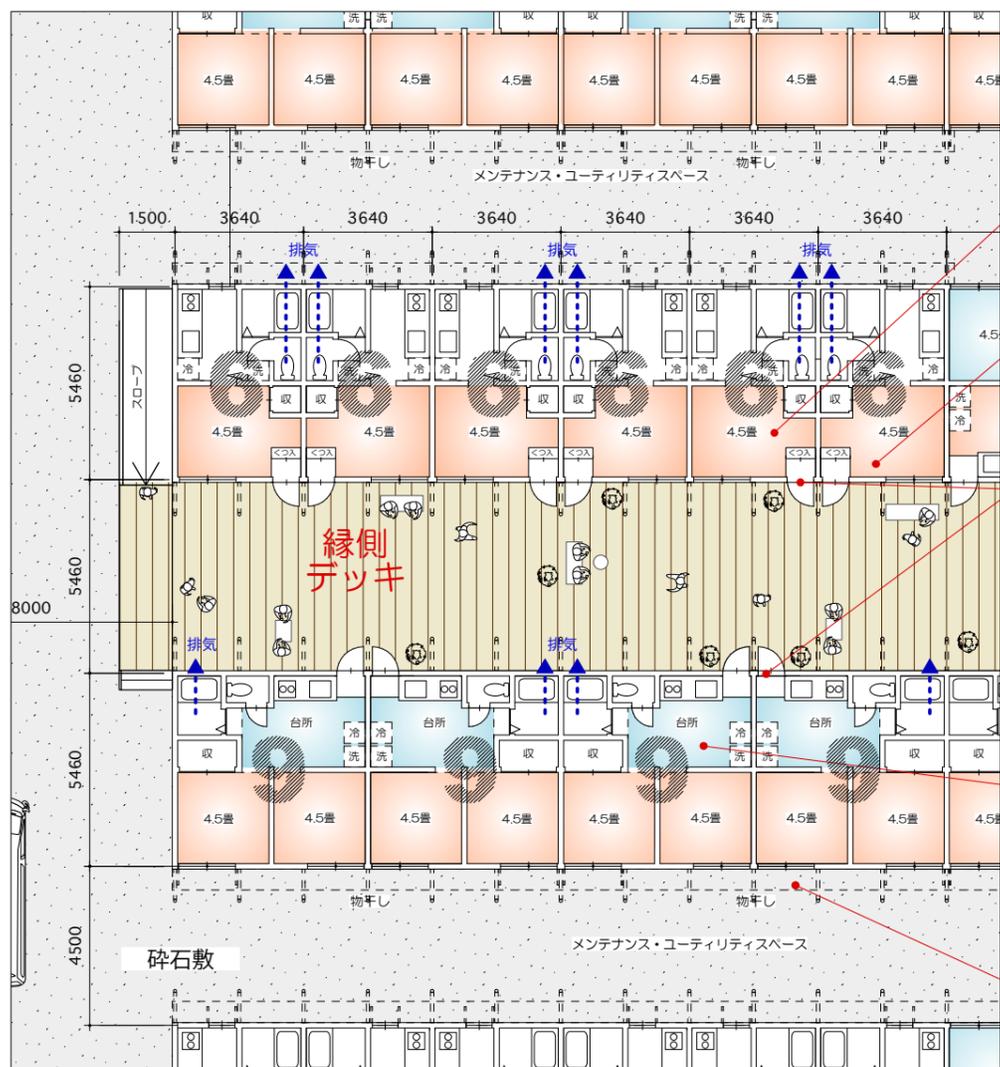
休耕地に客土することなく建設可能



南から日差しが入る縁側デッキのイメージ



### 日照型（東西軸コモンアクセス）



棟の北側には高齢単身者向け6  
坪住戸ユニットを配置

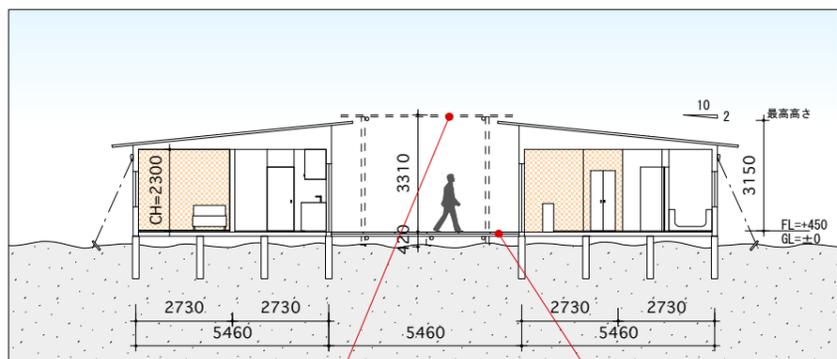
人の気配と見守る視線を感じ  
ることができる(リビング  
アクセス)の住戸計画

玄関が向かい合う(コモンア  
クセス)

棟の南側には家族向け9坪住  
戸ユニットを配置

南からの暖かい日差し

### 断面図



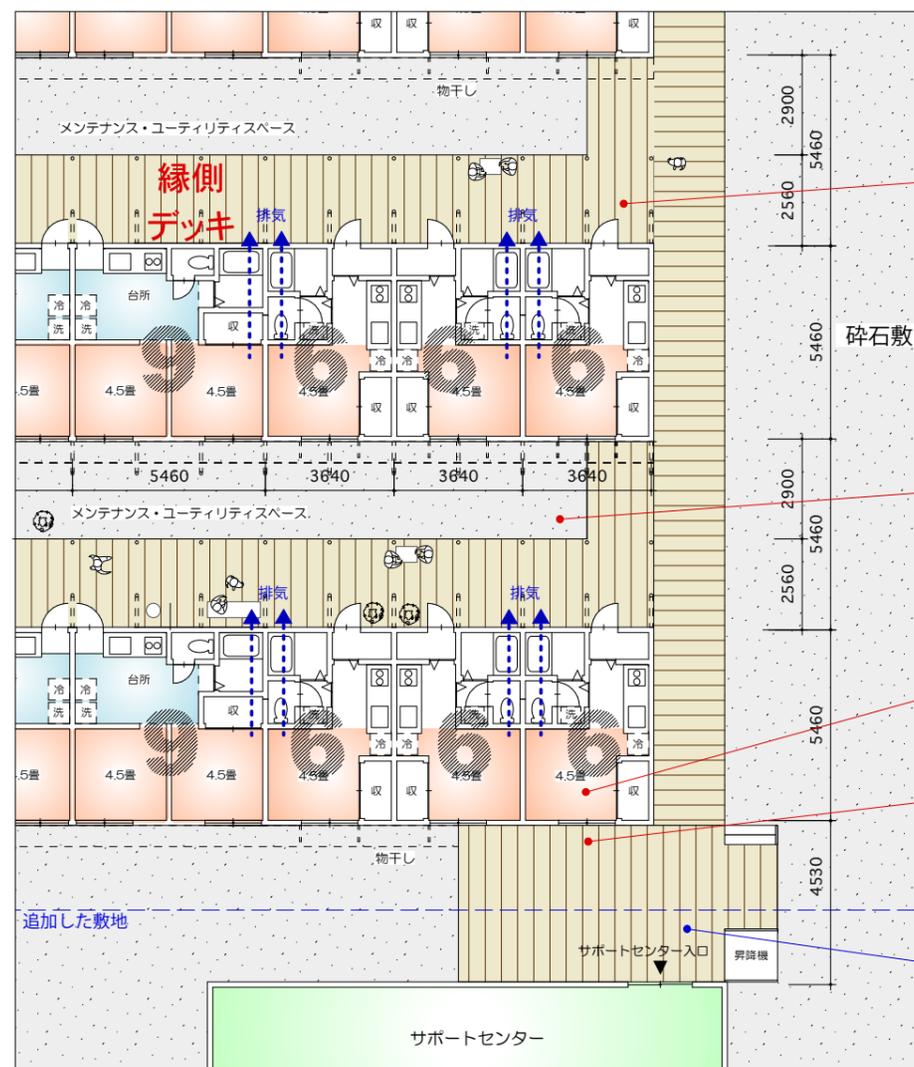
冬季は透過性の屋根を架け、温室的リビング  
夏季はよしずや緑のカーテンを架け、涼みの場

路地デッキを後で設置



住戸北側の縁側デッキのイメージ

### 従来付加型（南面平行シングルアクセス）



片側の玄関(シングルア  
クセス)

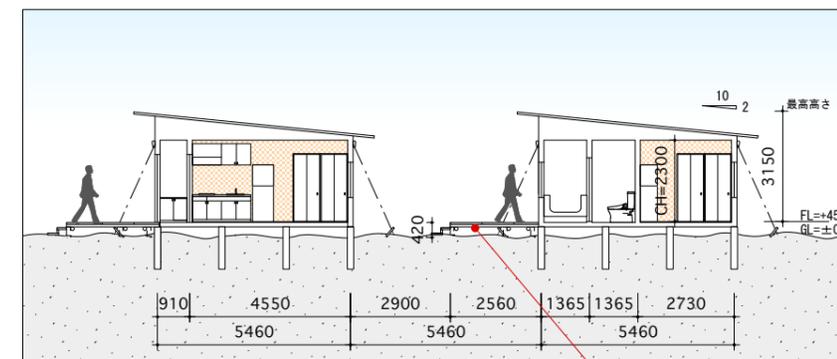
隣棟間は最低4.5m以上  
確保

従来の仮設住宅プランを  
そのまま採用

南からの暖かい日差し

仮設住宅と、後付けで建設し  
たサポートセンターをつなぐ  
デッキ

### 断面図



路地デッキを後で設置



住戸北側の縁側デッキのイメージ